兵庫県立小野高等学校　SSH事業を通した学習活動に対するルーブリック評価2023

	知識・技能	思考力・判断力・表現力					学びに向かう力・人間性		客観力
	①知的好奇心	②自分の意見をもつ力	③議論する力	④複合的にみる力	⑤批判的思考力	⑥分析的思考力	⑦挑戦する力	⑧行動する力	⑨メタ認知能力
A	学問という知の世界の一端を垣間見たときなどに、『面白い！』と感じ、その面白さを楽しむ（調べてみた、メモしてまとめてみた、ノートをつくってみた、誰かにその気持ちを伝えてみたなど）ことが、いろいろな分野においてあった。	自分の意見や考えを明確につくることができ、全体を総括して主張することができる気がする。	自分の意見や考えを客観的な根拠を示して論理的に伝えることができた。また、相手の意見や考えの説明を聞き、自分たちにはない考えがあること、その考えの妥当性についてある程度察することができた。	自分の意見や考えとは異なる視点にはどのようなものがあるのか、予想したり論理的に考えだすことができる。また、そのような異なる視点から見ることの重要性を実際に実感する場面が何度かあった。自分の意見や考えとは異なる主義、主張の存在を無視したり全否定したりするのではなく、その妥当性や正当性を客観的に判断することが自分にはできる。	授業や理数セミナーなどでの先生の話を聞いたり、教科書を読んだりする場合、いつも一歩引いたところから客観的に捕らえようと意識していおり、何の疑問もなく鵜呑みにすることはしない。疑問や質問を生み出す思考法が身についていて、そのことについて説明できる。生じた疑問については、質問したり、調べたり、ノートに記録するなどして情報の整理ができる。	因果関係やおこっている現象などについて、客観的な事実を指摘しながら説明できるうえに、数値などのデータを適切に処理し、数値の変化を客観的に分析し、また、必要な情報を収集して、どう見るのが妥当なのかを自分で気づくことができる。また、一つの結果に対して３つ以上の見方や可能性を指摘することができる。	一度はうまくいかなかったことではあるが、やり方を変えたり、新しい視点から見直したりして、再びやってみたいという意欲が湧いてくる。何度失敗しても、自分は失敗をそれほど苦にしないような気がする。それよりは何とかやり遂げたい気持ちが強い。	教員や共同研究者に、次は何をすべきか（手順）、どんなことがしたいのか（方向）、どんな準備が必要になるのか（予測）などを提案する立場に立つ場面が何度もあった。また、最初に声をかけるのは自分であることが多かった。	実験したり、考察したり、議論するなどしているときに、自分がどのような状況であるのかについて、頻繁に関心をもって振り返る習慣が身についている。また、自分の活動を振り返ることで、自分の中に何かしらの変化が生じたことに気がつき、さらに、そのような気づきが自分のパフォーマンスを高めていることをしばしば実感する。
B	学問という知の世界の一端を垣間見たときなどに、『面白い！』と感じ、その面白さを楽しむ（調べてみた、メモしてまとめてみた、ノートをつくってみた、誰かにその気持ちを伝えてみたなど）ことが、特定の分野においてあった。	ある程度は自分の意見や考えをもつことができたが、全体を総括して広く見渡せたような感覚は弱い。	自分の意見や考えを客観的な根拠を示して論理的に伝えることができた。一方、相手の意見や考えの説明については、聞いてみたが何を言っているか理解できなかったり、関心がわかなかったりして、議論がかみ合わなかった。	ある事象を理解するのに、異なる視点にたっていろいろな理解ができる場合があることは、経験として実際に実感する場面があり、その必要性も認めたい。また、どのような異なる考え方ができるのかを予想することができる。しかし、そのような異なる視点の存在は自分の意見や考え、ひいては、自分の行動や意思決定に不可欠だと感じた経験はほとんどない。	授業や理数セミナーなどでの先生の話を聞いたり、教科書を読んだりする場合、まずは理解することが優先であるが、ここはどうなっているのか、別の場合はどうなるかなど、いろいろな状況に関連した疑問が自然と湧いてくる。実際に質問したり調べたりするなどの行動をおこすことがよくある。	因果関係やおこっている現象などについて、客観的な事実を指摘しながら説明できるうえに、数値などのデータを適切に処理することができる。しかし、その数値をどう見るのが妥当なのかについては、必要な情報を自分で収集することは難しい。また、一つの結果に対して2つの異なった見方をすることはできる。	一度はうまくいかなかったことではあるが、やり方を変えたり、新しい視点から見直したりして、再びやってみたいという意欲はある。どこをどう変えてやってみればいいかもしれないことは予測できる。しかし、ある程度やってみてうまくいかないようだったら、やらない判断をするのが妥当だと感じる。	次に何をすべきなのかはだいたい理解できていたが、自分から動き出すほどの自信はなく、若干の面倒も感じる。教員やリーダー的な共同研究者が声掛けしてくれた方が安心して取り組める気がするので、取組が始まるまでは静観することが多かった。	実験したり、考察したり、議論するなどしているときに、自分がどのような状況であるのかについて、時々は関心をもって振り返るような習慣が身についている。また、自分の活動を振り返ることで、自分の中に何かしらの変化が生じたことに気がつくことがあり、さらに、そのような気づきが自分のパフォーマンスを高めていることを時々実感することがある。
C	学問という知の世界の一端を垣間見たときなどに、『面白い！』と感じることはあったが、その面白さが具体的な行動に結びつくことはあまりなく、記憶として残る場合と、いつしか消えていく場合がある。	自分の意見や考えは部分的・断片的であり、全体を総括して主張できる段階には至っていないように感じる。	自分の意見や考えを述べはしたが、客観的な根拠が不足したり、伝えたいことに対する理解が不十分だと感じることがあたり、主観的な表現が多かったりして、自分が伝えたいことがちゃんとは伝わっていないように感じた。	異なるものの見方を違う立場に立ってすることの意義は理解できるが、どのような視点があるのか気づくことが難しいと感じる。自分が正しいと感じる結論が大切であり、それとは違ったものの見方については、否定はしないが、それほど重要だとも思えない。	授業や理数セミナーなどでの先生の話を聞いたり、教科書を読んだりして、内容があらかた理解できたらそれで満足であり、安心する。内容に関して疑問が生じることは時々ある。しかし、実際に質問したり調べたりするなどの行動をおこすことはあまりない。	因果関係やおこっている現象などについて、客観的な事実を指摘しながら説明できる段階にまで到達している。最初に思いついたことには根拠があることが多い。一つの見方には気づくが、それとは違った複数の見方を考えられることは少ない。	一度やってみてうまくいかなかったことは、おそらく何度やってみうまくいかないだろうが、時間があれば、再びやってみてもいいかとも思う。どうやってみればよいかを積極的には考えることはあまりない。	次に何をすべきなのかがあまり理解できていなくて自信がなく、教員やリーダー的な共同研究者が声掛けしてくれた方が安心して取り組める気がするので、取組が始まるまでは静観することが多かった。	実験したり、考察したり、議論するなどしているときに、自分がどのような状況であるのかについて、時々は関心をもって振り返ることはあるが、習慣にはなっていない。また、自分の活動を振り返ることで、自分の中に何かしらの変化が生じたことに気がつくことはあるが、その効果を自覚できたことはあまりない。
D	学問という知の世界の一端を垣間見たときなどに、『面白い！』と感じることがあまりなく、自分がどういうことに興味があるのか自分では分からないような気がする。	自分の意見や考えをつくる機会や場面を捕らえることができなかった。	自分の意見や考えを述べる場面がほとんどなかった。あるいは、自分が伝えたいことは何であるかを実は自分自身が理解できていないように感じた。	ある事象を理解するのに、異なるものの見方を違う立場に立って理解することは、難しいと感じるし、面倒な点もある。結論は一つである方が分かりやすく、様々な視点から事象を見てみることにはあまり関心が持てない。	授業や理数セミナーなどでの先生の話を聞いたり、教科書を読んだりした後でも、その内容に関して特に疑問は生じない。また、先生の話を聞くときに、話の内容を先読みしたり、既に知っていることとの関連に気がつくことはほとんどない。	因果関係やおこっている現象などについて、何となく感覚的に理解できているような気がする。そのことから既に知っている知識や概念と関連づけて考え、思いついたことを中心に発言したり要約したりする。	新しい知識を活用したり、一度はうまくいかなかったことに再び挑戦するような意欲はほとんど湧いてこない。あるいは、自分にはそのような能力はないと思っているか、一度やってうまくいかなかったので、次もうまくは行かない気がする。	教員や共同研究者に何をするのか指示されないと、次に何をすべきなのか自分だけでは気づくことが困難だと感じた。	実験したり、考察したり、議論するなどしているときに、自分がどのような状況であるのかについて、関心をもつことはほとんどない。また、そのようなことに関心をもつことが自分の知的活動にプラスになった経験はほとんどない。